

## タイトル 平和日記



7月31日、笠岡での「平和コンサート」に行ってみました。前半しか参加できませんでしたが、中学生の平和学習の発表、市内語り部のお話が聞けてよかったです。彼女は当時看護婦として救護のために広島入りして被爆され、多くの被害者を目の当りにしてられました。今でも忘れられない光景だと言われます。(←)

庁舎内での原爆写真展を望んでいた私に、後日「ミニですがコーナーを設けてあります。」と教えていただいたので早速行ってみました。しかし入りにくいし、見えにくくもあり、少し残念に思いました。(→)



8月1日 日曜日、ニューヨークでの行動を共にした仲間からの誘いもあって、大阪原水協主催の「海外代表団と語ろう」の集まりに参加しました。会場は大阪府教育会館。113名が集いました。



ノルウエーから参加のウーレさんは、自国はナトー加盟国だが、NPT再検討会議のNY行動には各分野を代表する人たち20名を国が公費で援助し派遣したと言われ、驚きました。

おなじくノルウエーから参加のアン・マーガレットさんは、教育者としての立場から述べられ、1951年刷「広島の子どもたち」を、おさだあらた先生(?) 翻訳1956(又は1961年)のノルウエー語で読んだとき、私の意識は変わったとお話を始められました。チェルノブイリの爆発により周辺への影響について25年前のことなのに、今尚自然界への汚染が認められており、トナカイの肉も、野菜も販売禁止となっているということでした。だからこそ教育の中で人の世に原爆はいらないと平和教育が大切と結ばれました。左から三人目のアメリカから参加のがースさんは私たちのNY行動を受け入れてくださった中心人物です。核廃絶の具体的行動をしっかりと起こそうと励ましをいただきました。

8月2日 この目で見ないと信じられないと英会話のアシスタントが行ったことから、生徒の皆さんと一緒に彼女とともに広島を訪れることにしました。平和公園を歩き、碑に刻まれた言葉を読み、平和の鐘を突いて資料館をたずねました。



8月5日 pm6時から「核兵器をなくそう女性の集い2010 in 広島」に参加しました。

広島県総合体育館のアリーナが、フロアーも二階席もいっばいに埋め尽くされ、北海道から沖縄まで、多くの女性が集いました。海外からの代表団も来られており、大阪でお会いした方もおられました。



被爆証言を免田さんがされました。NPT再検討会議に向けてのNY行動の感想も交えながらのお話は、さまざまなご苦勞を重ねながら今日まで生きておられたことが良くわかるものでした。最後に「核抑止論はまだまだ根強いが、確実に廃絶は夢ではなくなっていると感じた」と結ばれました。世界の流れを又大きくするために私も微力を尽くしたいと感じました。

文化行事で登場した広島ジュニアマリンバアンサンブルは、軽快なリズムを子どもたちが元気よく刻み、思わず体を動かしたくなるような楽しいひと時でした。



世界と日本の運動の交流の中では新婦人の歴史ある取り組みはもちろん、高校生たちが、100本ノックと称して署名行動に出たら目標 100 筆集まるまで帰らないという取り組みにはみんなから拍手が沸き起こりました。大阪でもたこ焼きピースと言う若者のグループに出会い、若者たちの平和の思いを大切にしていかなければとあらためて感じました。

### 8月6日

笠岡平和記念祭（金崎平和の鐘・非核平和都市宣言ポールの広場で）に出席しました。毎年6日には広島市の平和記念祭に出席しています。今年は特にパン・ギムン国連事務総長や、アメリカ中日大使など、NPT再検討会議への取り組みの流れの後、初参加の皆さんがおられるときに、同じ場において歴史を共有したいと思っていました。同時に笠岡市で今年1月から取り組んだ「なくそう核兵器」署名の運動に、市の被爆者会の方も組織的にかかわり、大



献花する地域の人



署名運動を思い出しながら、来年も運動の構築をと誓いました。

きな力を寄せてくださいました。26782 筆という市民の力を私は心から誇りに思っています。初めて参加させていただきました。地域のおばあちゃんが桃を供えて祈ります。市長も2度とこの惨事を繰り返してはならないと平和の誓いをされました。被爆者会の筒井会長も土屋平和祭実行委員長も核廃絶に向けて今後も力を尽くす誓いを述べられました。私もあらためて昨年からの



挨拶をされる筒井会長と土屋平和祭実行委員長